(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2014-202030
(P2014-202030A)
(43)公開日　平成26年10月27日(2014.10.27)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
E04H 17/14	(2006.01)	E04H 17/14	103A	2E142
		E04H 17/14	101Z	

審査請求 未請求　請求項の数 5　OL　（全 12 頁）

(21)出願番号　特願2013-81257(P2013-81257)
(22)出願日　平成25年4月9日(2013.4.9)

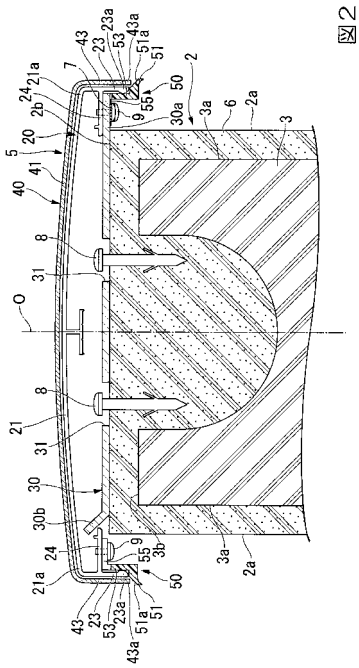
(71)出願人　000183428
住友林業株式会社
東京都千代田区大手町一丁目３番２号
(71)出願人　391024696
住友林業緑化株式会社
東京都中野区中央１丁目３８番１号
(71)出願人　000230607
日本化学産業株式会社
東京都台東区下谷２丁目２０番５号
(74)代理人　100064908
弁理士　志賀　正武
(74)代理人　100108578
弁理士　高橋　詔男
(74)代理人　100089037
弁理士　渡邊　隆

最終頁に続く

(54)【発明の名称】笠木用水切り部材

(57)【要約】
【課題】笠木本体の境界部に対応した位置において、塀の汚損を抑制することができる笠木用水切り部材を提供する。
【解決手段】塀２の上端面２ｂを覆うとともに、塀２の側面２ａよりも幅方向の外側に配置された笠天壁部２１と、笠天壁部２１の端部２１ａから下方に向けて延びる笠側壁部２３と、を備え、塀２の上部に複数連設される笠木本体２０と、複数の笠木本体２０の境界部に配置されたジョイント部材４０と、を備えた笠木５に設けられる笠木用水切り部材５０であって、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に向かって立設された水切り板部５３を備え、水切り板部５３の下端部５１は、複数の笠側壁部２３およびジョイント部材４０よりも下方において境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって塀２の側面２ａから離れるように傾斜する傾斜面５１ａを有する。
【選択図】図２

図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
塀の上端面を覆うとともに、前記塀の幅方向の端部が前記塀の側面よりも前記幅方向の外側に配置された笠天壁部と、前記笠天壁部の端部から下方に向けて延びる笠側壁部と、を備え、前記塀の上部に前記塀の延設方向に沿って複数連設される笠木本体と、
複数の前記笠木本体の境界部に配置されたジョイント部材と、
を備えた笠木に設けられる笠木用水切り部材であって、
前記塀の側面に対して離間した位置から下方に向かって立設された水切り板部を備え、
前記水切り板部の下端部は、複数の前記笠側壁部および前記ジョイント部材よりも下方において前記境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって前記塀の側面から離れるように傾斜する傾斜面を有することを特徴とする笠木用水切り部材。
【請求項２】
請求項１に記載の笠木用水切り部材であって、
前記水切り板部の下端部は、前記笠木本体の前記笠側壁部よりも前記幅方向の外側に配置されていることを特徴とする笠木用水切り部材。
【請求項３】
請求項１または２に記載の笠木用水切り部材であって、
前記水切り板部の前記延設方向における両端部は、前記ジョイント部材の前記延設方向における両端部よりも外側に配置されていることを特徴とする笠木用水切り部材。
【請求項４】
請求項１から３のいずれか１項に記載の笠木用水切り部材であって、
前記笠木は、前記境界部に対応する位置において、複数の前記笠木本体を接続するとともに、複数の前記笠木本体を前記塀の上端面に接続する接続ブラケットを備え、
前記接続ブラケットと一体形成されていることを特徴とする笠木用水切り部材。
【請求項５】
請求項１から４のいずれか１項に記載の笠木用水切り部材であって、
前記ジョイント部材のうち、前記笠側壁部に対応したジョイント部材側壁部の下端部は、上方から下方に向かって前記塀の側面から離れるように傾斜するジョイント部材水切り部とされ、
前記水切り板部の下端部は、前記ジョイント部材水切り部よりも前記幅方向の外側に配置されていることを特徴とする笠木用水切り部材。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、例えば塀の笠木に設けられる笠木用水切り部材に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
住宅等の外構に設けられたブロック等からなる塀の上部には、塀の保護や装飾等の目的で塀の上端面を覆うように笠木が配設される。
笠木の中には、例えば特許文献１に記載のようにアルミニウム等の金属により長尺に形成された笠木本体を、塀の延在方向に沿って複数連設することにより、塀の上端面を覆う構造としたものが提案されている。なお、笠木本体は長尺材であり、製作、配送に配慮して長さが決められているため、延設された塀等の躯体に対応させる必要があり、笠木本体を塀の延在方向に沿って複数連設して設置することが一般的である。
【０００３】
ところで、笠木本体を塀の延在方向に沿って複数連設したとき、笠木本体の境界部が視認されるのは意匠上好ましくない。また、連設された笠木本体の境界部からは雨水等が浸入しやすくなる。したがって、連設された笠木本体を備えた笠木には、意匠性の向上および防水を目的として、例えば、笠木本体の境界部を覆うためのジョイント部材が設けられることがある。

【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】意匠登録第１４４４８０１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、上述した技術にあっては、ジョイント部材と笠木本体との間およびジョイント部材と笠木本体との段差部に、土ほこり等の塵埃が堆積しやすい構造となっている。さらに、上述した技術にあっては、ジョイント部材と笠木本体との間に雨水が浸入しやすいとともに、ジョイント部材と笠木本体との段差部に沿って雨水等が通流しやすい構造となっている。したがって、ジョイント部材と笠木本体との間に浸入した雨水等や、段差部に沿って通流した雨水等は、塵埃とともに流れ出て塀の側面上を流れることとなる。これにより、塀の側面のうち、とりわけ笠木本体の境界部に対応した位置において、塵埃が塀に付着して汚損するいわゆる雨垂れが発生し、塀を汚損するおそれがある。
【０００６】
そこで、本発明は、上述した事情に鑑みてなされたものであって、笠木本体の境界部に対応した位置において、塀の汚損を抑制することができる笠木用水切り部材の提供を課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
上記の課題を解決するため、本発明の笠木用水切り部材は、塀の上端面を覆うとともに、前記塀の幅方向における端部が前記塀の側面よりも前記幅方向の外側に配置された笠天壁部と、前記笠天壁部の端部から下方に向けて延びる笠側壁部と、を備え、前記塀の上部に前記塀の延設方向に沿って複数連設される笠木本体と、複数の前記笠木本体の境界部に配置されたジョイント部材と、を備えた笠木に設けられる笠木用水切り部材であって、前記塀の側面に対して離間した位置から下方に向かって立設された水切り板部を備え、前記水切り板部の下端部は、複数の前記笠側壁部および前記ジョイント部材よりも下方において前記境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって前記塀の側面から離れるように傾斜する傾斜面を有することを特徴としている。
【０００８】
本発明によれば、笠木用水切り部材の水切り板部は、塀の側面に対して離間した位置から下方に向かって立設されているので、境界部近傍から流れ出る塵埃を含んだ雨水等を水切り板部で受けるとともに、塀の側面に対して離間した位置から下方に落下させることができる。さらに、水切り板部の下端部は、複数の笠側壁部およびジョイント部材よりも下方において境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって塀の側面から離れるように傾斜する傾斜面を有するので、境界部近傍から流れ出る雨水を傾斜面に沿わせて、塀の側面から離反するように落下させることができる。したがって、笠木本体の境界部に対応した位置において、雨水等によって運ばれた塵埃が塀に対して線状に付着する、いわゆる雨垂れ等の発生を効果的に抑制し、塀の汚損を抑制することができる。
また、水切り板部の下端部は、雨水等が流れ出て雨垂れが発生しやすいジョイント部材の下方に配置されるので、笠木全体の塀等の躯体からの出巾を抑えることができ、意匠性の向上および低コスト化ができる。
【０００９】
また、前記水切り板部の下端部は、前記笠木本体の前記笠側壁部よりも前記幅方向の外側に配置されていることを特徴としている。
【００１０】
本発明によれば、水切り板部の下端部は、笠木本体の笠側壁部よりも幅方向の外側に配置されているので、笠側壁部から下方に落下した雨水等を水切り板部で確実に受けて、塀の側面に対して離間した位置から下方に落下させることができる。したがって、笠木本体

の境界部に対応した位置において、塀の汚損を抑制することができる。
【００１１】
また、前記水切り板部の前記延設方向における両端部は、前記ジョイント部材の前記延設方向における両端部よりも外側に配置されていることを特徴としている。
【００１２】
本発明によれば、水切り板部の両端部は、ジョイント部材の両端部よりも外側に配置されているので、ジョイント部材から下方に落下した雨水等を水切り板部で確実に受けて、塀の側面に対して離間した位置から下方に落下させることができる。とりわけ、ジョイント部材と笠木本体との間に堆積した塵埃等が雨水等とともに流出した場合であっても、塀の汚損を抑制することができる。
【００１３】
また、前記笠木は、前記境界部に対応する位置において、複数の前記笠木本体を接続するとともに、複数の前記笠木本体を前記塀の上端面に接続する接続ブラケットを備え、前記接続ブラケットと一体形成されていることを特徴としている。
【００１４】
本発明によれば、笠木用水切り部材は、接続ブラケットと一体形成されているので、笠木への組み付けが容易で低コストな笠木用水切り部材を提供できる。
【００１５】
また、前記ジョイント部材のうち、前記笠側壁部に対応したジョイント部材側壁部の下端部は、上方から下方に向かって前記塀の側面から離れるように傾斜するジョイント部材水切り部とされ、前記水切り板部の下端部は、前記ジョイント部材水切り部よりも前記幅方向の外側に配置されていることを特徴としている。
【００１６】
本発明によれば、ジョイント部材側壁部の下端部は、上方から下方に向かって塀の側面から離れるように傾斜するジョイント部材水切り部とされているので、ジョイント部材から下方に落下した雨水等を、塀の側面に対して離間した位置から下方に落下させることができる。また、水切り板部の下端部は、ジョイント部材水切り部よりも幅方向の外側に配置されているので、ジョイント部材水切り部から下方に落下した雨水および境界部近傍から流れ出る雨水等を、塀の側面に対してさらに離間した位置から下方に落下させることができる。したがって、塀の汚損を大幅に抑制することができる。
【発明の効果】
【００１７】
本発明によれば、笠木用水切り部材の水切り板部は、塀の側面に対して離間した位置から下方に向かって立設されているので、境界部近傍から流れ出る塵埃を含んだ雨水等を水切り板部で受けるとともに、塀の側面に対して離間した位置から下方に落下させることができる。さらに、水切り板部の下端部は、複数の笠側壁部およびジョイント部材よりも下方において境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって塀の側面から離れるように傾斜する傾斜面を有するので、境界部近傍から流れ出る雨水を傾斜面に沿わせて、塀の側面から離反するように落下させることができる。したがって、笠木本体の境界部に対応した位置において、雨水等によって運ばれた塵埃が塀に対して線状に付着する、いわゆる雨垂れ等の発生を効果的に抑制し、塀の汚損を抑制することができる。
また、水切り板部の下端部は、雨水等が流れ出て雨垂れが発生しやすいジョイント部材の下方に配置されるので、笠木全体の塀等の躯体からの出巾を抑えることができ、意匠性の向上および低コスト化ができる。
【図面の簡単な説明】
【００１８】
【図１】実施形態に係る笠木用水切り部材を有する笠木を備えた塀の斜視図である。
【図２】図１のＡ－Ａ線に沿った断面図である。
【図３】図１におけるＢ矢視図である。
【図４】実施形態の第一変形例に係る笠木用水切り部材を有する笠木の断面図である。

【図５】実施形態の第二変形例に係る笠木用水切り部材を有する笠木の断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００１９】
以下に、本発明の実施形態にかかる笠木用水切り部材について、図面を用いて説明する。
図１は、実施形態の笠木用水切り部材５０を有する笠木５を備えた塀２の斜視図である。なお、以下では、塀２が延設されている方向を塀２の延設方向といい、水平面上で延設方向と直交する方向を塀２の幅方向という。また、上下方向は、鉛直上下方向に相当する。
図１に示すように、塀２は、例えば建物１の外構に用いられるものであって、建物１を囲うように設けられている。
【００２０】
図２は、図１のＡ－Ａ線に沿った断面図である。
図２に示すように、塀２は、塀本体３と、塀本体３の側面３ａおよび上面３ｂを覆う仕上材６と、により構成されている。なお、以下の説明では、塀２の幅方向の中央において塀２に沿う面を仮想面Ｏとし、塀本体３の側面３ａから見て、仮想面Ｏ側を内側といい、仮想面Ｏとは反対側を外側という。
【００２１】
塀本体３は、例えばコンクリート等からなるブロック材を複数積み上げることにより形成される。各ブロック材は、上下方向に連通する不図示の孔部が形成されており、不図示の鉄筋が挿通される。各ブロック材の孔部および各ブロック材の間には、モルタルやセメント等が充填されており、ブロック材、鉄筋および各ブロック材同士がモルタルやセメント等により固定される。また、塀本体３の上面３ｂは、幅方向中央部において下方に凹み形成された凹部を有している。
塀本体３の側面３ａおよび上面３ｂを覆う仕上材６は、例えばモルタルからなり、吹き付け塗装やコテ等により塗布することで形成される。仕上材６は、塀本体３の側面３ａおよび上面３ｂから例えば１０ｍｍ程度の厚さを有するとともに、塀本体３の上面３ｂにおける凹部内に充填されている。
【００２２】
塀２は、上部に笠木５を備えている。笠木５は、主に複数の笠木本体２０と、接続ブラケット３０と、ジョイント部材４０と、笠木用水切り部材５０と、により形成されている。以下に、笠木５の各構成部品について説明する。
【００２３】
笠木本体２０は、断面視で下方に開いたＵ字形状に形成されており、例えばアルミニウム等の金属材料を押し出し成型することにより形成されている。笠木本体２０は、塀２の上端面２ｂを覆う笠天壁部２１と、笠天壁部２１の幅方向の端部２１ａから下方に向けて延びる笠側壁部２３と、を備えている。
笠天壁部２１は、上面が上方に凸の曲面形状に形成されている。笠天壁部２１は、塀２よりも幅広に形成されており、幅方向の端部２１ａが、塀２の側面２ａよりも幅方向の外側に張り出し配置されている。
笠側壁部２３は、笠天壁部２１の端部２１ａから鉛直方向に沿って下方に延びており、下端部２３ａが塀２の上端面２ｂよりも下方に配置されている。
【００２４】
図３は、図１におけるＢ矢視図である。なお、図３においては、分かり易くするために、笠木本体２０およびジョイント部材４０については二点鎖線で図示しており、笠木本体２０およびジョイント部材４０を透視した図としている。
笠側壁部２３には、内側面における上下方向の中間部から内側に向かって張り出す固定片２４が形成されている。図３に示すように、笠木本体２０の一方側（図３における右側）の固定片２４は、接続ブラケット３０に対して例えばタッピングネジ７により締結固定されている。

【００２５】
接続ブラケット３０は、例えばアルミニウム等の金属材料により形成された平板状の部材であり、平面視で塀２の幅方向に長辺を有し、塀２の延在方向に短辺を有する長方形状に形成されている。接続ブラケット３０には、幅方向の中間部に位置する仮想面Ｏを挟んで両側に、第一固定孔３１が一対形成されている。第一固定孔３１には、アンカー８が挿通されて塀２の上端面２ｂに埋設されている。これにより、接続ブラケット３０は、複数の笠木本体２０の境界部に対応する位置において、複数の笠木本体２０を接続するとともに、複数の笠木本体２０を塀２の上端面２ｂに接続している。
【００２６】
接続ブラケット３０の一方側（図３における右側）の端部３０ａには、第二固定孔３２が形成されている。第二固定孔３２は、塀２の延在方向に離間して一対設けられている。一対の第二固定孔３２には、下方からタッピングネジ７が挿通されて、一対の笠木本体２０の固定片２４にそれぞれ螺着されている。これにより、複数の笠木本体２０は、接続ブラケット３０によって延在方向に所定距離だけ離間した状態で塀２の上部に固定されて、塀２の延設方向に沿って複数連設される。
図２に示すように、接続ブラケット３０の他方側（図２における左側）の端部３０ｂは、塀２の内側から外側に向かって、上方に向かって立ち上がるように傾斜している。接続ブラケット３０の他方側の端部３０ｂは、笠木本体２０の他方側（図２における左側）の固定片２４よりも上方に配置されている。これにより、笠木本体２０の他方側の端部の上方への移動を規制し、上方に浮き上がるのを防止している。また、笠木本体２０の設置時においては、接続ブラケット３０の他方側の端部３０ｂに笠木本体２０の他方側の端部を係止しつつ、塀本体３の上部に笠木本体２０を容易に設置できる。
【００２７】
ジョイント部材４０は、例えばアルミニウム等の金属材料により形成された板状の部材であり、断面視で下方に開いたＵ字形状に形成されている。
ジョイント部材４０は、塀２の延設方向に沿って連設された一対の笠木本体２０の境界部を覆うように配置されており、一対の笠木本体２０における笠天壁部２１の対向する端部を上方から覆うジョイント部材天壁部４１と、一対の笠木本体２０における笠側壁部２３の対向する端部を側方から覆うジョイント部材側壁部４３と、を備えている。
【００２８】
ジョイント部材４０は、断面視で内面が笠木本体２０の外面に沿うように形成されている。ジョイント部材４０における塀２の延在方向に沿う幅は、延在方向に連設された一対の笠木本体２０の離間距離よりも広くなっている。また、ジョイント部材４０は、一対の笠木本体２０に対して、例えば接着剤等により固定されている。
ジョイント部材天壁部４１は、上面が上方に凸の曲面形状に形成されている。また、ジョイント部材側壁部４３は、鉛直方向に沿って下方に延びており、下端部４３ａが塀２の上端面２ｂよりも下方であって、笠側壁部２３の下端部２３ａと同等の位置に配置される。
【００２９】
図３に示すように、笠木用水切り部材５０は、例えば樹脂材料等に形成された部材であり、塀２の両側方に設けられている。なお、塀２の両側方に設けられた笠木用水切り部材５０は、それぞれ同一形状をしており、仮想面Ｏを挟んで対称となるように設置されている。したがって、以下では、一方（図２および図３における右側）の笠木用水切り部材５０について説明をし、他方（図２および図３における左側）の笠木用水切り部材５０については説明を省略する。
【００３０】
笠木用水切り部材５０は、下方に向かって立設された水切り板部５３と、水切り板部５３を固定するための取付片５５と、を備えている。
図２に示すように、水切り板部５３は、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に向かって立設されている。

図３に示すように、水切り板部５３の上側には、延在方向の両端部において内側に張り出す一対の取付片５５が形成されている。一対の取付片５５には、固定孔５６が形成されている。固定孔５６には、タッピングネジ９が下方から挿通されて、笠木本体２０の固定片２４に螺着される。これにより、笠木用水切り部材５０は、笠木本体２０に対して締結固定される。

【００３１】

図２に示すように、水切り板部５３の下端部５１は、断面視で外側に屈曲した後、下方に屈曲して下方を指向している。水切り板部５３の下端部５１は、笠木本体２０の笠側壁部２３およびジョイント部材４０のジョイント部材側壁部４３よりも幅方向の外側に配置されている。

また、水切り板部５３の下端部５１は、一対の対向する笠側壁部２３およびジョイント部材４０よりも下方において、連設された一対の笠木用水切り部材５０の境界部に跨るように配置される。また、水切り板部５３の延在方向に沿う長さは、ジョイント部材４０の延在方向に沿う幅よりも長くなっている。これにより、水切り板部５３の延設方向における両端部は、ジョイント部材４０の延設方向における両端部よりも外側に配置されている。

【００３２】

ここで、水切り板部５３の下端部５１は、上方から下方に向かって塀２の側面２ａから離れるように傾斜する傾斜面５１ａを有している。傾斜面５１ａは、例えば鉛直方向に対する傾斜角度が４５°程度であり、笠側壁部２３の下端部２３ａおよびジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａよりも下方に配置されている。これにより、笠側壁部２３の下端部２３ａおよびジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａから下方に落下した雨水等は、傾斜面５１ａに沿うように勢いよく移動し、塀２の側面２ａから離反するように落下する。

【００３３】

実施形態によれば、笠木用水切り部材５０の水切り板部５３は、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に向かって立設されているので、境界部近傍から流れ出る塵埃を含んだ雨水等を水切り板部５３で受けるとともに、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に落下させることができる。さらに、水切り板部５３の下端部５１は、複数の笠側壁部２３およびジョイント部材４０よりも下方において境界部に跨るように配置されるとともに、上方から下方に向かって塀２の側面２ａから離れるように傾斜する傾斜面５１ａを有するので、境界部近傍から流れ出る雨水を傾斜面５１ａに沿わせて、塀２の側面２ａから離反するように落下させることができる。したがって、笠木本体２０の境界部に対応した位置において、雨水等によって運ばれた塵埃が塀に対して線状に付着する、いわゆる雨垂れ等の発生を効果的に抑制し、塀２の汚損を抑制することができる。

また、水切り板部５３の下端部５１は、雨水等が流れ出て雨垂れが発生しやすいジョイント部材４０の下方に配置されるので、笠木５全体の塀２からの出巾を抑えることができ、意匠性の向上および低コスト化ができる。

【００３４】

また、水切り板部５３の下端部５１は、笠木本体２０の笠側壁部２３よりも幅方向の外側に配置されているので、笠側壁部２３から下方に落下した雨水等を水切り板部５３で確実に受けて、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に落下させることができる。したがって、笠木本体２０の境界部に対応した位置において、塀２の汚損を抑制することができる。

【００３５】

また、ジョイント部材４０が複数の笠木本体２０の境界部を覆うように配置され、水切り板部５３の延在方向における両端部は、ジョイント部材４０の延在方向における両端部よりも外側に配置されているので、ジョイント部材４０から下方に落下した雨水等を水切り板部５３で確実に受けて、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に落下させることができる。とりわけ、ジョイント部材４０と笠木本体２０との間に堆積した塵埃等が

雨水等とともに流出した場合であっても、塀２の汚損を抑制することができる。

【００３６】

（実施形態の各変形例）

続いて、実施形態の各変形例に係る笠木用水切り部材５０を有する笠木５について説明をする。なお、以下では、実施形態と同様の構成部分については説明を省略し、異なる部分についてのみ説明する。

【００３７】

（実施形態の第一変形例）

図４は、実施形態の第一変形例に係る笠木用水切り部材５０および笠木５の断面図である。

実施形態では、水切り板部５３は、水切り板部５３の上側に一対の取付片５５が形成されており、タッピングネジ９により笠木本体２０の固定片２４に螺着されていた（図３参照）。

これに対して、図４に示すように、実施形態の第一変形例では、笠木用水切り部材５０は、接続ブラケット３０と一体形成されている点で、実施形態とは異なっている。

【００３８】

笠木用水切り部材５０は、例えばアルミニウム等の金属材料により形成されており、接続ブラケット３０の両端部３０ａ，３０ｂに配置されるとともに、連設された一対の笠木本体２０の境界部に対応する位置において、接続ブラケット３０と一体形成されている。笠木用水切り部材５０は、例えばプレスや押し出し成型等により、接続ブラケット３０の形成時に同時に形成される。

実施形態の第一変形例によれば、笠木用水切り部材５０は、接続ブラケット３０と一体形成されているので、笠木５への組み付けが容易で低コストな笠木用水切り部材５０を提供できる。

【００３９】

（実施形態の第二変形例）

図５は、実施形態の第二変形例に係る笠木用水切り部材５０および笠木５の断面図である。

実施形態では、ジョイント部材側壁部４３は、鉛直方向に沿って下方に延びており、水切り板部５３の下端部５１は、笠木本体２０の笠側壁部２３およびジョイント部材４０のジョイント部材側壁部４３よりも幅方向の外側に配置されていた（図２参照）。

これに対して、図５に示すように、実施形態の第二変形例では、ジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａは、上方から下方に向かって塀２の側面２ａから離れるように傾斜しており、水切り板部５３の下端部５１は、笠木本体２０の笠側壁部２３およびジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａよりも幅方向の外側に配置されている点で、実施形態とは異なっている。

【００４０】

ジョイント部材側壁部４３を下方に落下する雨水等は、傾斜した下端部４３ａに沿うように勢いよく移動し、塀２の側面２ａから離反するように落下する。すなわち、ジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａは、ジョイント部材水切り部４４として機能している。

実施形態の第二変形例によれば、ジョイント部材側壁部４３の下端部４３ａは、上方から下方に向かって塀２の側面２ａから離れるように傾斜するジョイント部材水切り部４４とされているので、ジョイント部材４０から下方に落下した雨水等を、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に落下させることができる。また、水切り板部５３の下端部５１は、ジョイント部材水切り部４４よりも幅方向の外側に配置されているので、ジョイント部材水切り部４４から下方に落下した雨水および境界部近傍から流れ出る雨水等を、塀２の側面２ａに対してさらに離間した位置から下方に落下させることができる。したがって、塀２の汚損を大幅に抑制することができる。

【００４１】

なお、この発明の技術範囲は上記実施の形態に限られるものではなく、本発明の趣旨を

逸脱しない範囲において種々の変更を加えることが可能である。

【００４２】

実施形態では、塀２が直線的に延在している場合について、笠木用水切り部材５０を適用した態様を説明した。これに対して、塀２が屈曲している場合についても同様に笠木用水切り部材５０を適用することができる。このとき、笠木用水切り部材５０は、塀２の側面２ａに対して離間した位置から下方に向かって立設されるとともに、塀２の屈曲に対応して屈曲形成される。これにより、塀２の角部および隅部においても、塀２の汚損を大幅に抑制することができる。

【００４３】

笠木用水切り部材５０や笠木５、塀２等の形状や材質等は、実施形態に限定されない。特に、笠木用水切り部材５０の下端部５１は、形状や長さ、傾斜面５１ａの傾斜角度等について種々変更が可能である。

また、実施形態では、住宅等の建物１の外構に設けられた塀２の笠木に笠木用水切り部材５０を適用しているが、本発明の適用は、建物１の外構に設けられた塀２に限定されない。例えば、ベランダやバルコニー等の塀の上端部に設けられる手すりを兼ねた笠木等に適用してもよい。

また、実施形態では、ジョイント部材４０が笠木本体２０の外側に設けられた、いわゆるアウタジョイント形式を例にして実施形態に係る笠木用水切り部材５０を説明したが、例えば、ジョイント部材４０が笠木本体２０の内側に設けられた、いわゆるインナジョイント形式であっても、本発明の笠木用水切り部材５０を適用できる。

【００４４】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上記した実施の形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能である。

【符号の説明】

【００４５】

２　塀
２ａ　側面
２ｂ　上端面
５　笠木
２０　笠木本体
２１　笠天壁部
２１ａ　端部
２３　笠側壁部
３０　接続ブラケット
４０　ジョイント部材
４３　ジョイント部材側壁部
４３ａ　下端部
４４　ジョイント部材水切り部
５０　笠木用水切り部材
５１　下端部
５１ａ　傾斜面
５３　水切り板部

【図１】

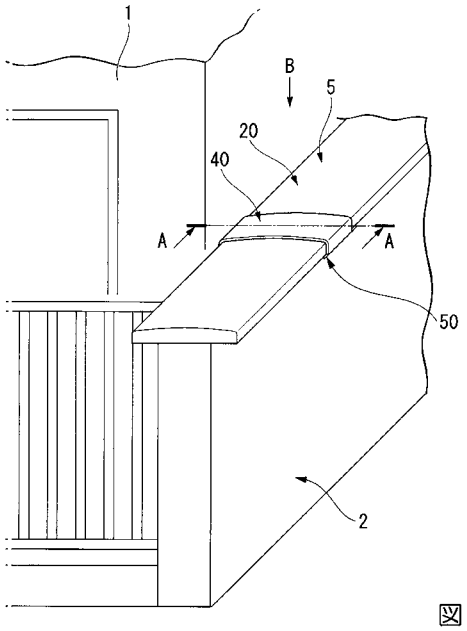


図１

【図２】

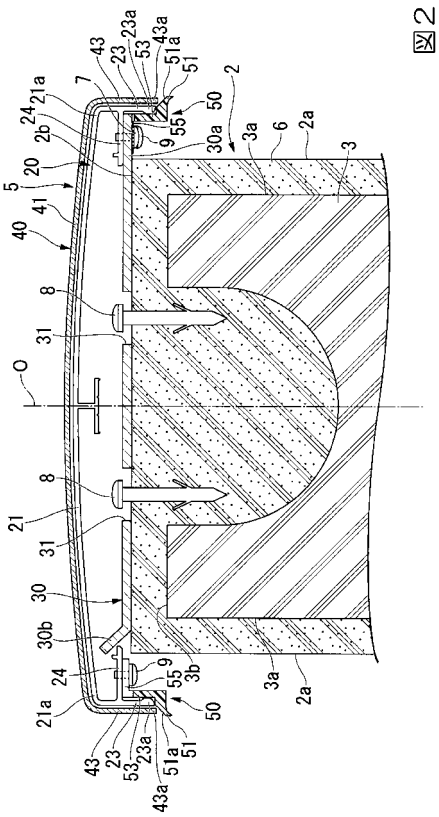


図２

【図３】

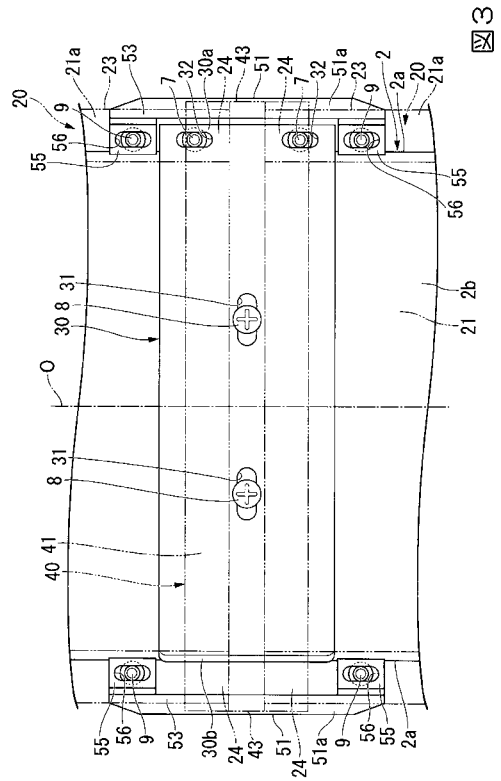


図３

【図４】

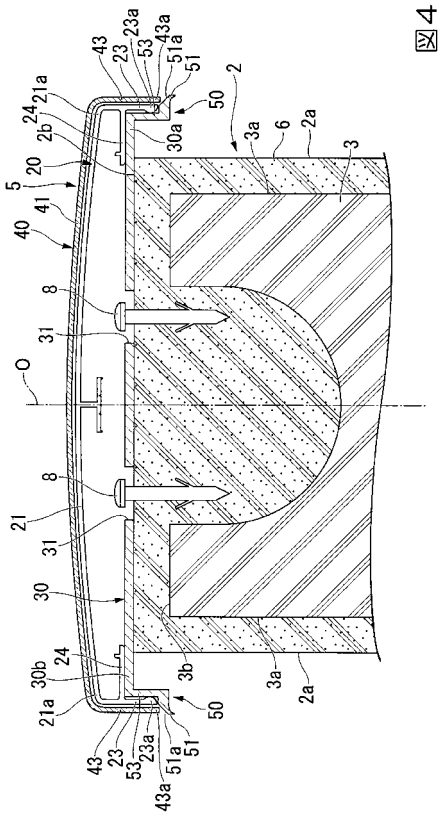


図４

【図５】

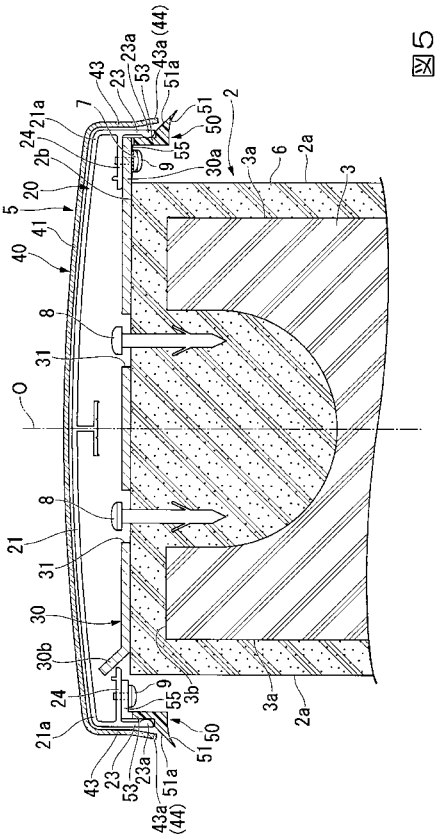

43
23
53
23a
43a (44)
51a
51
50
2
7
21a
24
2b
55
9
30a
3a
6
2a
3
20
5
41
40
8
31
O
8
21
31
30
30b
24
9
55
3b
3a
2a
21a
51
50
43
23
53
23a
51a
43a
(44)

図５

フロントページの続き

(74)代理人 100094400
弁理士 鈴木 三義
(74)代理人 100108453
弁理士 村山 靖彦
(72)発明者 伊藤 英
東京都中野区中央１丁目３８番１号 住友林業緑化株式会社内
(72)発明者 池永 豊
東京都台東区下谷２丁目２０番５号 日本化学産業株式会社内
(72)発明者 直井 優季
東京都台東区下谷２丁目２０番５号 日本化学産業株式会社内
Ｆターム(参考) 2E142 AA01 AA05 FF00 MM01